

(07.11.25)

アジア太平洋物理学会・プラズマ物理部門設立準備

高部英明

(本原稿は阪大レーザー研の広報誌に依頼され書いたものである 071125)

02年、日本物理学会の理事に指名された際、「国際交流の活性化」を依頼された。特に、90年に設立されたアジア太平洋物理学会連合(AAPPS: <http://www.aapps.org/>)の活性化である。AAPPSの理事に選出された05年からは理事会で議論を重ね、物理学の各分野の部門(Division)を設立することでアジア・オセアニアの17カ国・地域内のボトム・アップによる交流を行おうと提案し、「提案者がまずは見本を示すべし」の私の考えに従い、自分の専門分野である表記活動を開始した。

幸い、この活動を支援してくれるかのように核融合科学研究所から「分野間連携による国際学術拠点形成」の委員に指名され、財政的支援を得てアジア太平洋の研究ネット形成を開始した。06年12月に大阪に9カ国25名のプラズマ物理研究者を集め、第1回の設立準備会を開催した。皆同じ問題意識を共有してくださり、「次の世代が欧米と対等に世界の舞台で活躍できるような仕組みを我々が今から用意しよう」と理念や行動計画など合意を得ることができた。開発途上国の多いアジアを考え、研究と教育を同じ比率で重視して活動していくことで合意した。

レーザー研では米国物理学会のプラズマ物理部門の年会(APS-DPP)があると教授がほとんどいなくなる。昨年、APS-DPPの運営委員会に出席し、25名の委員が熱心に活動報告するのを聞いて「これはとうていまねできない」と感心した。では、AAPPS-DPPはどうするか。DPP年会の試みを10/31-11/3、シンガポールの南洋理工大学(NTU)のShuyan XU教授と共同主催で実施した。ノーベル賞学者のC. N. Yang(35才でT. D. Leeと物理学賞受賞)の85才の誕生記念国際会議と合同開催した。プラズマ物理フロンティア会議と名付けて、アジア太平洋から参加者を募り5カ国の研究者が集まった。午前中はYangの会合の基調講演と合流し、午後、プラズマの会議を行った。

プラズマ物理は学際的であるから一人45分で時間を掛けて発表。質疑もどんどん入れて行い、大変おもしろい会合となった。同時に、基調講演も素粒子・物性・統計力学・物理数学と幅広いが4名のノーベル賞学者の話も含め大変おもしろい話が目白押しであった。日本の参加者からは会議後、「期待以上の大変おもしろい会合だった」と感謝の言葉をいただいた。シンガポールは街がきれいで、何を食べてもおいしいし、安全で英語が共通語。今回宿泊したNTUの宿舎を気に入った。そこで、シンガポールをAAPPSのプラズマ物理教育の拠点にしようと考え、XU教授とも合意ができた。来年の6月、アジア太平洋から大学院生を集めて一週間の学校(AAPPS Plasma School)を行う。この学校を毎年開催したい。大学院生諸君、期待していただきたい。